

「ブラインド」パラスポーツ 体験教室

種目：フロアバレーボール

主催：東京都・公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、協力：東京都立大学

活動場所

南大沢学園体育館

2022年10月23日（日）

報告

「ブラインド」パラスポーツ体験教室3回目

10月23日(日)、南大沢学園体育館において、「令和4年度都立特別支援学校活用事業ブラインドパラスポーツ体験教室」、3回シリーズの第3回（最終回）の「フロアバレーボール」を実施しました。8月4日の本学で実施した事前講習会に引き続き、日本フロアバレーボール連盟4名の皆様が講師としてサポートに携わっていただきました。

フロアバレーボールとは？

6人制バレーボールをベースに考えられた競技で、前衛3人が目隠しをして、後衛3人は目隠しをせずにプレーを行います。ボールを転がしてネットの下をくぐらせて相手コートに攻めていきます。

会場設営・準備

今回の「フロアバレーボール」は、参加者16名（障害のある方4名、障害のない方12名）、ボランティア6名、本学プログラムメンバー7名、他スタッフ8名（うち本学教職員3名）で実施しました。

12時過ぎから、本学プログラムメンバーによる体育館フロアのモップ掛けから始まりました。日本フロアボール連盟の方の指導の下、ラインテープで白線を引くグループと支柱を立ててネットを張るグループに分かれて設営をしました。8月4日の事前講習会に参加した学生も多かったことからスムーズに設営を行い、事業団募ボランティアとも協力して作業を進めました。ボランティア同士でフロアバレーボールの練習時間もありました。



参加者の皆さんが到着する前に、全体の挨拶が事業団およびフロアバレーボール連盟からありました。コロナ対策は通常通り検温を行い、マスク着用でしたが、運動が必要な時には各自マスクを外して構わないというアナウンスもありました。



「ぶどう、すいか、スマイル、ベスト9」という名のチームで対戦

まず、本学プログラムメンバー・ボランティアで構成された2チームが対戦形式でデモンストレーションを行い、参加者が見学しました。事前講習会で学んだ効果が発揮されました。次に、全員が各6-9名で4チームに分けられました。チームごとにボールを転がし、アイシェードなし・ありで練習を行いました。そして、15分ずつ4試合を行いました。障害のある方や・高齢の方や子供達3人が同じチームに参加しましたが、いきなりゲーム形式での体験にもかかわらず、プログラムメンバー・ボランティア及び講師の懇切丁寧なサポートが功を奏し、障害のある方を含め老若男女がチーム一体となって、ゲームを楽しむ場となりました。やはり、しゃがんでプレーする前衛3人に対する後衛3人の声掛けがこの競技のキープポイントでした。前衛が子供達3名のチームのきびきびした動きには歓声が沸いていました。障害のある方もサーブやレシーブを上手く行うことができました。この体験教室を通じて皆が楽しみながら協働関係を築くことができました。

今回のイベントでは、全員が十二分に体を動かして楽しみ、怪我をする人もなく、閉講式で無事に終了しました。



プログラムメンバーの声

- 事前の講習会があったおかげで、講師の方だけでなく、都立大生もルールやプレーの仕方を参加者の方に教えることができました。
- 自分達が難しいと感じたことを、かみ砕いて説明するなど、楽しんでもらえるように工夫できました。
- 参加者の方と共に楽しんで活動できた点が良かったです。もう少し的確に教えられるようにしたいと思いました。
- 体験者の方とコミュニケーションをあまり取れなかったのは、せっかくの機会なのに勿体無かったと思います。次の機会ではやってみての感想などを聞けたらいいなと思いました。
- 目が見えない方にうなづいても気づかれないので、そういった細かいことにも今後は気づいていきたいです。
- 良かった点は参加者と上手く打ち解けた事。